

組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名： **医学部医学科**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 医学教育の高度化に対応し学士課程教育の向上のためカリキュラムの改革、動機づけのための早期体験実習の充実につとめる。 臨床実習をより効率よく実施できるようにシミュレータを用いた教育の拡充に努める。 学士課程の最終評価である卒業試験を分野毎の評価のみではなく統合的試験を行うことに取り組む。	全学的に進む「学士教育の構築」の取り組みを学部レベルで推進した。また、初年次開講の医学概論、2年次開講の基礎病態演習を再編して新たな内容で本年度初実施した。特に早期体験実習を充実した内容(病棟での看護体験等を導入)で本年度初実施し、医学教育の動機づけのため大きな成果を上げた。 医療教育統合開発センターと緊密に連携し、キャンパス内の各所にあるシミュレータについて、専用HPを作り、利用促進を図り、全機種について大幅に利用実績が向上した。 統一卒業試験を、昨年度の仮実施を受けて、今年度初回本格実施し、統一卒業試験の成績を基準とした卒業判定を初めて実施した。 平成24年3月19日発表の医師国家試験の結果は、新卒者合格者95名(合格率96.7%)、総合合格者107名(合格率92.2%)と、大幅に改善した。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 研究科、病院と連携して、分子イメージング研究を開始し、トランスレーショナルリサーチを推進する。 科研費、寄付金、受託研究費など外部資金のさらなる獲得を推進する取り組みを行う。	研究科との連携のもと、産学官共同研究拠点OMIC事業をスタートさせ、平成23年4月開所式を開催した。 また、医学系から選出された新研究開発委員長のもと、共同研究の活性化を推進するため、『2011 医療系融合・発展に向けてのブレインストーミングin直島』(9月予定:台風直撃により延期するも11月実施)、特別講演会「先端医学研究のトレンド2012」(平成24年2月)を開催した。 外部資金の実績については、研究科の中心として、大学全体として設定する目標を既にクリアし、さらなる獲得を推進している。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 病院、研究科と連携して、女性医師等復職支援事業及び地域医療機関での体験実習などを推進して、地域医療の支援につとめる。 鹿田地区の計画的な整備、調和のとれたキャンパス景観の形成を推進するとともに、ゾーニングの策定によって社会に開かれた地区となるよう努める。	岡山県の寄附講座である地域医療人材育成講座が中心となり、1年次学生に対して、岡山県内の複数施設で各学生とも一週間程度の地域医療体験実習を実施し、ポートフォリオ評価を行った。必修の地域枠学生7名のほか、14名と多くの一般枠学生が受講したことが特筆される。また、岡山県女性医師キャリアセンター運営事業として、平成22年度設置された医療人キャリアセンター「マスカット」は、学内はもとより広く岡山県下の医療人に対象を拡大し活動を展開した。 鹿田地区将来構想(建物等)検討WGにて、30-40年先までの長期構想をまとめ、24年3月答申を取り纏め、医学系会議に報告した。本答申は、本部、施設部門と共同作業により策定し、岡山南キャンパスの公式の建物(等)の長期計画となる。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
平成24年予算案に計上された鹿田地区の施設整備を滞りなく実現するため、事業ごとの責任者を定めて鋭意検討を進めた。	